

Port of Hachinohe

No. **30**
Mar 2010

---Maritime & Trade Report---

- 今号の主な記事
- 八戸港東南アジアコンテナ定期航路交流ミッション
- 「八戸港フォーラム」開催
- 2009年八戸港コンテナ貨物取扱量～40,000TEU突破～
- 八戸港にLNG輸入基地建設
- 八戸市海外経済協力員レポート
- 八戸港の物流を支える人々

八戸港東南アジアコンテナ定期航路交流ミッション



台北市進出口商業同業公会 左：八戸市長 右：黄總幹事

八戸港国際物流拠点化推進協議会（会長：八戸市長 小林 眞）では、今年1月11日から16日の6日間にわたり、香港・台湾を訪問しました。

今回のミッションでは、八戸と香港・台湾を結ぶ東南アジア航路の更なる利用拡大を目指し、台北市で八戸港をPRする「八戸港貿易促進セミナー」を開催するとともに、関係機関等を訪問し、リンゴやナガイモを始めとする青森県産品の輸出促進について意見交換しました。

また、八戸港の今後の整備方向及び貿易振興の参考にするため、香港RTT（River Trade Terminal）、基隆港を視察しました。

香港は、世界第3位（2008年）のコンテナ取扱量を誇り、中国との貿易において重要な港湾の1つです。また、台湾は、八戸港にとって、中国に次ぐコンテナ貨物量を有する重要な貿易相手国となっています。

（関連記事2ページ）



香港港内を運航するコンテナ船

八戸港東南アジアコンテナ定期航路交流ミッション

1. 八戸港のPR

○「八戸港貿易促進セミナーin台北」

台北市内において「八戸港貿易促進セミナー」を開催し、貿易・物流関係者ら約80名の参加のもと、八戸港及び青森県産品、八戸地域についてPRを行いました。また、事例紹介として、八戸市に立地しているアルバック東北のグループ企業である、優貝克科技股份有限公司(アルバック台湾) 經理 吳東嶸氏から会社概要及び、八戸市との人的交流等についてご講演いただきました。

セミナー後の情報交換会では、県産品の試食・試飲を行い、参加者の反応は良好なものでした。



吳東嶸經理による事例紹介



PILジャパン 張社長による乾杯



情報交換会の様子

2. コンテナサービスの拡充について

○船会社等訪問

昨年香港への直接寄港を開始した東南アジア航路を運航するPIL社の香港法人であるPIL(HK)、PIL台湾総代理店である東光船務代理股份有限公司、中国・韓国航路を運航する南星海運(株)の香港法人南星海運香港有限公司を訪問し、各航路のコンテナサービス拡充、貿易拡大について意見交換を行いました。

また、昨年9月から八戸港を活用した小口混載貨物取り扱いサービスを開始している三統株式会社の香港法人三統香港有限公司も訪問し、顧客物流事情に応じたマルチコンソリデーションサービスについての説明、小口貨物に関する意見交換、香港では一般的なコンテナトレーラーごと入ることができる「ビルと一体となったCFS(Container Freight Station)」を見学しました。



南星海運香港有限公司訪問



三統香港有限公司のCFS



基隆港のコンテナヤード

3. 輸出拡大について

(1) 貿易関係機関の訪問

財団法人交流協会台北事務所、中華民國對外貿易發展協會(TAITRA)、台北市進出口商業同業公會をそれぞれ訪問し、「リーマン・ショック後の台湾経済回復動向」や「青森県産ブランド定着について」等、台湾の経済状況・貿易可能性について意見交換を行いました。

(2) 現地企業の訪問

ミッション参加企業が香港・台湾の企業を訪問し、意見交換等を行いました。訪問した企業から、「安心・安全・健康がキーワードになっている」「(今後) 試食販売をしてはどうか」等、ご意見・ご提案を頂戴しました。

今後は、輸出拡大に向け様々なフォローを行って行く予定です。

4. 香港(RTT)、基隆港の視察

香港は世界第3位のコンテナ取扱港で、その中でもRTTは、舁(はしけ)を使った沖合いでのコンテナ荷役を専門とするターミナルです。面積の狭い香港では、この荷役が効果を発揮しています。

基隆港は台湾で2番目のコンテナ取扱港で、八戸港との交易も多い港です。ここでは、PIL社のコンテナの船積みや取扱い現場を視察しました。台湾では基隆港、台北港、高雄港とそれぞれの特徴別に整備され、世界のハブ港を目指しています。

今回のミッションの成果を活かし、県産品の輸出促進、八戸港の利用拡大に取り組んで参ります。

京浜港セミナー開催

2月10日(水)、グランドプリンスホテル赤坂(東京都千代田区)において、「京浜港セミナー」(主催:東京都港湾局、川崎市港湾局、横浜市港湾局、東京港埠頭株式会社、財団法人横浜港埠頭公社、社団法人東京都港湾振興協会、社団法人川崎港振興協会、社団法人横浜港振興協会)が開催され、荷主、船会社、物流事業者等約600人が参加しました。

青森県は、昨年6月29日に締結した「内貿振興に向けた八戸港と京浜三港(東京港、川崎港、横浜港)の連携に関する協定」に基づく内貿振興事業推進の取り組みの一つとして、本セミナーを初めて後援しました。

第1部では、主催者から京浜港の現況及び広域連携の取組状況、京浜港共同ビジョンについての紹介がありました。その後、青森県の竹内春繁県土整備部次長から、八戸港の概要説明や、内航フィーダーを利用したコンテナ貨物が増加している状況を紹介するとともに、京浜三港との連携強化に向けた、八戸港の取り組みについてプレゼンテーションが行われました。また、青森県の紹介ブースでは、パネル展示による八戸港の紹介に加え、八戸港の紹介資料や「青森県産業立地ガイド」等のパンフレットを配布しPRを行いました。

第2部では、東京都の石原慎太郎都知事、川崎市の阿部孝夫市長、横浜市の林文子市長の3首長の挨拶に続き、意見交換会が開催されました。



八戸港の紹介



意見交換会の様子

お問い合わせ先
青森県県土整備部港湾空港課
http://www.pref.aomori.lg.jp/kotsu/build/kowan_top.html
TEL: 017-734-9676
FAX: 017-734-8194

「八戸港フォーラム」開催

本年2月5日(金)に、八戸グランドホテルにおいて「八戸港フォーラム」(主催:八戸港国際物流拠点化推進協議会、八戸港振興協会、共催:青森県、八戸市)を開催、港湾関係者を中心に274人もの参加者がありました。

今年度の八戸港フォーラムでは、改訂された八戸港の港湾計画を踏まえ、八戸港のこれまでの歩みを振り返り、重要性や役割を再認識するとともに、特定重要港湾昇格に向け、更なる発展について過去、現在、そして未来に向けて様々な観点から基調講演等を通じて参加者とともに考えました。

冒頭、港湾管理者である青森県から「八戸港港湾計画の改訂について」の行政報告を行いました。

また、基調講演として、「八戸を拓く『市制施行80周年・八戸港開港指定70周年』～八戸のみなどの歴史～」を元八戸市建設部長の小瀧勇氏から、「八戸港利用促進と内航フィーダー」を鈴与海運株式会社代表取締役社長の飯田節男氏から、「北極海航路の将来性とその活用について」を海洋政策研究財団特別研究員で、元北海道大学教授の北川浩光氏からご講演いただき、それぞれの立場で八戸港の今後のあるべき姿についてご教示いただきました。

参加者からは、「昨年八戸港のコンテナ取扱量が40,000TEU突破したことを今後の自信とするとともに、さらなるコンテナ集荷を目指したい」、「八戸港が八戸市のみならず青森県や北東北の地域振興に重要な役割を果たしてきたことを再認識した」などの感想が寄せられました。



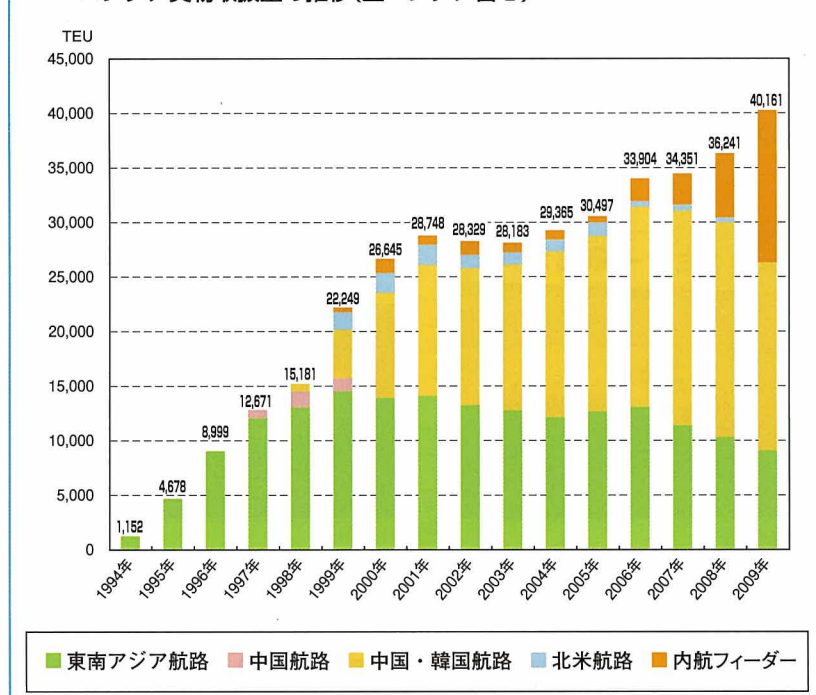
八戸市長挨拶

2009年八戸港コンテナ貨物取扱量 ～40,000TEU突破～

2009年の八戸港のコンテナ貨物取扱量（空コンテナ含む）は、対前年比で約11%増加し40,161TEU、実入りコンテナも対前年比約9%増の24,970TEUと、ともに過去最高を記録しました。

中でも、内航フィーダー航路が前年に引き続き好調で、対前年比237%増の13,652TEU（空コン含）を記録しています。また、中国・韓国航路も、実入りコンテナでは、対前年比約8%増の12,793TEUと堅調に取扱量を増やしています。

コンテナ貨物取扱量の推移(空コンテナ含む)



2009年コンテナ貨物取扱量【航路別】

単位: TEU

航路	空コン含 (前年)	実入 (前年)
東南アジア	9,025 (10,312)	6,844 (7,445)
中国・韓国	17,484 (19,854)	12,793 (11,840)
北米	0 (0)	0 (309)
内航フィーダー	13,652 (5,766)	5,333 (3,212)
総計	40,161 (36,241)	24,970 (22,806)

マレーシア国際貿易展示会へ出展

八戸港国際物流拠点化推進協議会は、2009年11月10～12日、マレーシアのクアラルンプール市で開催された、国際貿易展示会「INTRADE MALAYSIA 2009」（主催：マレーシア貿易開発公社（MATRADE））にブースを出展しました。マレーシアは、東南アジアの中で、八戸港からの輸出が最も多い国です（2008年実績）。今回の展示会には、マレーシア国内・外の企業約300社が出展しました。この展示会と同時に、世界82カ国約750名参加のバイヤーミッションが行われ、招待されたバイヤーも、展示会のブースを訪れました。

当協議会のブースでは、八戸港のPRをするともに、（株）ファーストインターナショナル、アラヤフルーツ（株）が、リンゴ等の地元産品を展示、PRを行いました。他のブースでは、家具、自動車・二輪車部品、衣類、建材、小型風力発電機等様々なものが展示されていました。生鮮食料品が扱われているブースは少なかったこと、また、リンゴの良い香りに誘われてか、当ブースには多数の来場者があり、賑わいを見せました。今回の出展を機に、マレーシアとの取引がさらに活発になることを期待しています。



当協議会のブース

ハバロフスク国際見本市への出展

青森県では、昨年度に続き2009年10月8日から11日までの4日間、極東ロシア・ハバロフスク市のレーニンスタジアム室内競技場で開催された国際見本市「中小ビジネス2009」に出展し、県内企業5社の商品PRと本県産業の紹介を行ってきました。

出展した商品は、すでにハバロフスク向け輸出が始まっている「顆粒みそ汁」(かねさ(株))、「ハチミツ入りりんご酢」(カネショウ(株))のほか、リキュール、レトルトしじみ汁、焼肉のたれなどで、商品説明・試食を行い、「顆粒みそ汁」と「ハチミツ入りりんご酢」は即売も行いました。

本県ブースには多数のハバロフスク市民が訪れ、感想も、「おいしい」、「日本製なので安心できる」、「品質が良い」など高評価が多かったのですが、特にハバロフスク市民の健康志向は非常に高く、例えば「ハチミツ入りりんご酢」については、健康に良い飲料であるとアピールした結果、かなりの高価格であったにもかかわらず完売となり、「健康」をアピールできる商品であれば、価格が高くても受け入れられるとの印象を受けました。

また、現地では「みそ汁」の認知度が非常に高く「顆粒みそ汁」も大好評だったほか、アルコール類も人気で、今回の出展を通じて、本県が得意とする食品分野に関してはハバロフスクでの販路開拓がさらに期待できる結果となりました。

今後も、極東ロシアとのビジネス交流をさらに進めていくとともに、これらの経験を活かしながら、市場としてより可能性の大きいモスクワなどのヨーロッパロシアとのビジネス交流にも取り組んでいきたいと考えています。



青森県ブースに集まる来場者



焼肉のたれの試食

お問い合わせ先
青森県商工労働部国際交流推進課
経済交流推進グループ
TEL : 017-734-9730
FAX : 017-734-8119

八戸港にLNG輸入基地建設

石油元売り国内最大手の新日本石油株式会社が、八戸港の埋立地・ポートアイランドにLNG(液化天然ガス)輸入基地を建設することが決定、1月20日には、八戸グランドホテルにおいて、新日本石油株式会社、青森県、八戸市の三者により、立地協定調印式が行われました。

八戸LNG輸入基地は、114,000㎡の敷地に、貯蔵容量14万キロリットルのLNGタンク2基、LNG外航船受入設備、LNG内航船出荷設備、天然ガス気化設備、タンクローリー出荷設備等を有し、北東北・道東への供給拠点として位置付けられています。

調印式では、西尾進路 新日本石油株式会社代表取締役社長が、「北東北や北海道の供給拠点として、重要な基地に育てたい」と抱負を語りました。

三村申吾 青森県知事は、「大きな可能性を有するエネルギー企業の立地であり、関連産業を含めたクラスター化(産業集積)を進めたい」、小林眞 八戸市長は、「LNG輸入基地の建設は、雇用の創出、地場産業への経済効果、港湾貨物取扱量の増加、エネルギー供給基盤の確立等、地域へ大きな波及効果があるものと認識している」と期待を述べました。

2010年度には、基地建設に着工し、2015年4月に運転を開始する予定となっています。



調印式の様子

八戸市海外経済協力員レポート

八戸市は、平成22年3月現在（天津、シンガポール、マニラ、タコマ）の4名に「八戸市海外経済協力員」を委託し、現地の出来事や経済状況をレポートしていただいております。また、八戸地域の企業等が協力員の在住都市を訪問する際には、協力員に現地事情の説明等をしていただけますので、ご希望の方は八戸市産業振興部産業政策課（TEL0178-43-9244）までご連絡ください。（なお、海外経済協力員の日程等の都合により、対応できない場合もありますので、予めご了承ください。）

REPORT

マニラレポート



ANDES SUMITRONICS, INC.
山下 正彦 氏

サラマッポ（ありがとう）フィリピン共和国

海外経済協力員の任命を頂いています、ASIの山下です。私は新年の幕開けを、フィリピンで迎えました。毎年のことですが、首都圏や主な市町村ではクリスマス前から眩いイルミネーションで飾られ、毎晩の様に花火が打ち上げられます。特に大晦日真夜中から始まる爆竹や花火は耳を塞ぎたくなるほどの轟音。そして元旦の未明に爆発音は最高潮へ。鼻をつく火薬の匂いとともに、路上はモウモウとした煙に包まれ、大量の爆竹が残したゴミで埋まります。今回は各自治体の広報活動の効果？で死者は無かったようですが、それでも花火・拳銃の流れ弾による負傷者は597人（前年同時期比15%減）との報道がありました。「これ位なら大丈夫。来年もやる」と一向に懲りない負傷者の人達。フィリピンの一面を垣間見るところです。

昨年はフィリピンも100年に一度の世界同時大不況の嵐で始まりました。弊社が属する電子産業界は一部大手メーカーがアジア圏内生産拠点の再構築による増産効果はありましたが、総じて景気の回復感はなく、日本と同様に「景気の二番底への不安」が話題の中心となっています。

今回は、私が二度の赴任を含めた約15年間の係りを通じて感じた、フィリピンの一面を紹介したいと思います。

初めてフィリピンを訪れたのは、1995年の5月です。海外進出の事前調査が主目的でした。今でも空港に降り立った時の、抜けるような青空、真っ白でデカイ入道雲、そして焼きつく陽射しの強さが鮮明に思い出されます。熱気は想像以上でしたが、決して第一印象は悪くありませんでした。因みに後になって知ったのですが、フィリピンの5月は一年で一番暑い時期です。（サマーシーズン）

しかし、まず受けた洗礼が今も変らぬ交通渋滞。1時間かけて100mも動かない。車は走行車線も対向車線も関係ナシ。空いている瞬間に車両の鼻先を突っ込む。更に身動きが取れなくなる。「いったい道交法てものはないのか、ここは！」などなど。更に、苦勞しながらも所期の目的を終わろうとした矢先に強烈な体験をしました。こちらで云うアメーバ赤痢です。まさしく七転八倒の腹痛と……。一挙に体重が激減してしまいました。そうこうして帰路につく中、フィリピン展開は大丈夫かな？が正直な気持ちであったと記憶しています。

あれから縁があって15年の年月が経ちました。この間を振り返り、

私なりにフィリピンを形容する言葉を選ぶとしたら、やはり「慈愛の国フィリピン」で表現したいと思います。

当然のことながら決して良いイメージだけではなく、昨年11月に起きたマギンダオ州知事選絡みの大量虐殺事件、頻発する紛争・拉致問題、毎年の台風被害などフィリピン社会に内包する「病巣」は何らかの形で情報を見聞します。時には、リスク管理が必要となります。また、日常生活の中で苦勞を感じるフィリピン人気質としては、

- ・喉もと過ぎれば熱さ忘れる。
- ・暖簾に腕押し、ぬかに釘。
- ・衝動的行動（先を見ようとしない）。

などが挙げられます。事業を進めていく中でも「どうしてまた・・・?!」の苦勞は常に付きまといま

しかし、それらの課題にも「まっいっか」と、憎めない感情でフィリピン生活をしている日本人（外国人）は多いと思います。それは、フィリピン人の家族愛、他人に対する慈しみ、底抜けの笑顔と挨拶、それと仕事に対する真面目さ（女性に多い）に因ると思います。

いつぞや、夕食に台湾レストラン（火鍋屋）に入った時のこと。10代の子供達、その両親、そしておじいさんと、7人位の家族が隣のテーブルに着き食事をしている中、常におじいさんを気遣う孫娘さんの姿に感激しました。日本でも祖父母を世話するのは珍しいことではないと思いますが、私が感激したのは娘さんのおじいさんへの眼差しでした。それは義務や体裁といった形式に拠るものではなく、まさに愛情そのものからくる眼差しの様に見えました。また、当地でよく聞くのは、兄・姉が自分の学業を中断若しくは止めてまでも年下の妹・弟の世話を熱心に行っている話です。確かに就業機会の少ないフィリピンでは学業を高めることの重要性は理解されますが、「家族の絆」を教えられる一場面です。

昨年、日本では「看護師・介護士」の受け入れが話題となりましたが、現状は試験に必要な日本語習得が障害になり、先行き不安の報道がされています。そのため、英語に不自由しないフィリピン人の関心は欧米中東に向き始めています。老人介護に何が最も大事かを考えると、先に紹介したフィリピン人の慈愛精神が不可欠だと思いますが……。受け入れシステムの改善が出来ないものかと感じます。

フィリピンは人をホッとさせる何かをもっています。それは開放感のある温暖な自然によるものなのか。昔から変わらないことがホッとさせるのか。規則やルールを無視しても非難されない気楽さなのか。全てを赦すやさしい国民性からくるものなのか。要因はともあれいつまでもホッとさせてくれる国であって欲しい。そして、慈愛に溢れる国民であり続けることを願いたいところ

八戸港とマニラ港が姉妹港になる橋渡しに尽力なされたコラソン・アキノ元大統領が昨年8月に逝去しました。常に国民からは国際社会に誇れるコーリーの愛称で敬愛されましたが、76歳の生涯を閉じております。ご冥福をお祈りします。

日本食品の人気はホンモノ ～フィンランド～

日本貿易振興機構 (JETRO)
青森貿易情報センター
TEL 017-734-2575
FAX 017-773-2877
〒030-0802 青森市本町1-2-15 青森本町第一生命ビル5階

ジェトロ青森は青森県の農産物輸出支援のために、2009年10月22～25日の4日間、ヘルシンキ事務所との連携のもと、ヘルシンキ市の見本市会場で開催された食品展示会「Wine, Food and Good Living 2009」に参加しました。弘前のりんご業者をはじめ10社が出展し、会期中に地元の有力な輸入・卸企業や大手百貨店などの商談会も設けました。

<展示会、商談会、レセプションの3本柱で>

2009年はフィンランドと日本の外交関係樹立90周年にあたり、フィンランドでは日本国大使館を中心に各種の記念事業が実施されました。交流ムードが高まる中で、日本食ブームの流れに沿って大型食品展示会へ参加したものです。

青森県の参加団体からは、りんご、りんごジュース、黒にんにく、お菓子、日本酒、味噌(顆粒)、長いも、コメ、漆器製品などが出品されました。そのうち4社は、ブースのアテンドと商談会参加のための訪問でした。展示会は消費者も含む展示商談会であったため、有力な果実の輸入・卸企業や大手百貨店などと個別会社訪問商談の形を別途設定し、フィンランド・日本の双方に好評でした。

また日本国大使館の賛同を得て、大使公邸で出品者が提供した青森県産の食材を調理し、商談相手の企業やレストランのオーナー、メディアなどを招待して試食会も開催しました。

<手ごたえのあった商談会>

商談会では野菜・果実の輸入卸商、地元有名デパート、寿司店経営のフィンランド人起業家、日本食料品店の4社と商談。この中で、りんごについては航空便での配送や梱包資材、値段、市場性に関してやり取りがあり、その他の商品については、品質の良さを実感している様子で、輸出した場合の値段を聞かれました。また寿司店経営者のネットワークを紹介してもらえることになりました。

ヘルシンキ唯一の日本食料品店との商談の中で、フィンランド在住30年の日本人経営者は、「ここ10年は日本食ブームで宣伝をしなくてもメディアが取り上げてくれるため、売上げがどんどん伸びた。店の顧客の7割はフィンランド人で、健康ブームもあって日本茶、みそ、納豆などが注目されている。最近日本から新米を1トン輸入したところなので、価格さえ折り合えば青森からも試してみたい。漆器製品については、この時期を狙えばクリスマスプレゼント用に売れるのではないかな。いずれにしても今回の商品は、魚介類成分を含むものを除いて市場性は堅い」との発言がありました。

<展示会では日本ブースが目玉に>

日本ブースは、日本からの出展が初めてであること、日本食ブームで集客に貢献するとみられることから、入口付近の一番目立つ場所が提供されました。

試食・試飲はカウンターに並べると即座になくなる状態で、感想はいずれも好評でした。中でも顆粒味噌汁の味、りんごとりんごジュースの甘さ、黒にんにくの色と発酵の甘さには感動したようで、「どこで買えるのか」と多くの来場者から尋ねられました。

日本酒は法律でアルコール類の無料試飲ができないため、クーポン券を1杯1.6ユーロで販売し、そのクーポン券を持参した入場者にのみ試飲が許されました。これも評判はよく市場性があることをうかがわせましたが、同じ720mlの一般ワインが10～20ユーロで売られており、日本酒が特に大吟醸のような高価格になると、競争力をなくすことが予想されます。今回の出展でフィンランド側の3業者が日本酒に関心を示し、展示会終了後に具体的な商談に入りました。

漆製品の展示は地味ながらも「手にとってみていいか」と聞く熱心な客が多く、最近では日本通も増えてきていることから、贈答シーズンに向けて有望ではないかという実感がもてました。

日本から欧州に輸出を目指す時、フィンランドを真っ先に思い浮かべる人は少ないですが、世界的に不況前のロシアの好景気は、隣国のフィンランド市場に好影響を与えて、食品市場にも高級品志向のトレンドが存在しています。品質が良く、健康イメージの強い日本食品は必ず目玉商品になるであろう事を考えると、今回の「オール青森商品出展」は非常に有意義なものでした。



展示ブースの様子

八戸港の貿易概況報告(平成21年1月～12月)

〒039-1162 青森県八戸市豊洲3-9 八戸港貿易センター3階

日本貿易振興機構 (JETRO) 八戸情報デスク TEL:0178-72-1850 FAX:0178-72-1503

<概況>

平成21年の八戸港の貿易概況は、08年秋の世界同時不況で価格が低迷したことにより、輸出額は、鉄鋼製品・一般機械・フェロニッケル等の不調により8年ぶりに大幅に減少(歴代3位)。輸入額は、トウモロコシ・ニッケル鉱等の不調により2年連続で著しく減少(歴代10位)。輸出入額全体では、前年比3割減の2000億円台(歴代4位)となった。貿易額のうちコンテナ貨物通関額は、前年比約25%減の544億3百万円、通関本数は前年比2%減の19,423TEUとなった。

■平成21年1月～12月の貿易額(単位:千円)

※資料：八戸税関支署発表の貿易統計
(八戸港・むつ小川原港・久慈港)から抜粋

輸 出

品名	単位	今年累計		対前年比 累計%	
		数量	価格	数量	価格
船 舶	NO	12	37,144,890	109.1%	103.5%
フェロニッケル	MT	138,890	31,584,031	154.0%	72.0%
有機化学品	KG	1,231,480	403,671	72.6%	68.9%
紙 製 品	MT	1,358	115,683	55.7%	52.9%
一般機械			38,495,624		71.6%
鉄鋼製品	MT	257	72,351	0.7%	2.3%
飼 料	MT	604	47,523	34.7%	47.7%
魚 介 類	MT	14,135	1,701,250	94.4%	87.9%
鉄鋼くず	KG	37,620,432	1,116,183	108.2%	57.0%
電気機器			288,889		72.8%
その他	—		2,750,928		109.4%
合 計	—		113,721,023		78.8%

●コンテナ貨物通関額 ()内は対前年比

輸 出	389億61百万円(74.5%)
輸 入	154億42百万円(73.6%)
合 計	544億 3百万円(74.3%)

●コンテナ貨物通関本数 ()内は対前年比

輸 出	9,226TEU(140.5%)
輸 入	10,197TEU(77.0%)
合 計	19,423TEU(98.0%)

輸 入

品名	単位	今年累計		対前年比 累計%	
		数量	価格	数量	価格
ウッドチップ	MT	1,091,203	14,784,962	129.9%	84.9%
とうもろこし	MT	885,782	19,155,455	99.3%	59.1%
ニッケル鉱	MT	1,959,763	10,688,004	97.3%	44.1%
木 材	CM	23,631	618,359	107.8%	99.8%
亜鉛鉱	MT	123,155	5,250,343	86.9%	53.6%
亜鉛さい	MT	9,011	270,045	55.7%	28.2%
大豆粕	MT	248,165	10,645,360	110.1%	85.7%
魚 介 類	MT	20,197	5,058,667	87.3%	83.3%
飼 料	MT	73,804	2,402,768	77.4%	105.0%
石 炭	MT	586,883	6,081,300	71.2%	53.2%
こうりゃん	MT	246,605	48,820,275	181.8%	102.7%
ウッドパルプ	MT	1,000	45,272	3.7%	2.3%
カオリン	MT	64,351	1,419,078	75.3%	59.2%
肥 料	MT	6,841	303,556	14.9%	11.1%
コークス等	MT	90,731	2,984,455	87.8%	52.0%
鉛 鉱	MT	60,687	7,244,614	92.4%	76.4%
金属製品	MT	4,161	1,361,168	86.2%	89.7%
その他穀物	MT	14,197	272,571	1803.9%	234.6%
糖 蜜	MT	5,219	93,948	65.0%	76.5%
一般機械			1,281,436		92.9%
その他	—		9,188,441		47.5%
合 計	—		103,970,077		62.3%

函館税関管内(北海道及び青森、秋田、岩手各県)で 第一号の「特定輸出者」承認

2月22日(月)、弘前市のキャノンプレジジョン(株)が、函館税関管内では第一号となる特定輸出者に承認され、承認通知書交付式が行われました。

特定輸出者とは、貨物のセキュリティ管理とコンプライアンス(法令遵守)の体制が整備されたと認められた事業者が、税関長の承認を受けて、保税地域等に貨物を搬入することなく、輸出通関を行える等のベネフィットが受けられる制度です。自社工場等で通関できるなど、輸出貨物を迅速かつ円滑に船積みすることができ、リードタイムと物流コストの削減につながります。また、輸出申告においては関係書類の提出を一部省略化できるため、手続きも簡素化されます。

この制度は2006年から始まり、現在では全国で233の事業者が特定輸出者に承認されています。今回のキャノンプレジジョン(株)は、函館税関管内では初の承認になります。

交付式は、青森税関支署において行われ、キャノンプレジジョン(株)より小川弘喜 取締役第一事業部長が出席し、石山周二 函館税関長より通知書を受けました。



承認通知書交付式

お問い合わせ先
函館税関青森税関支署
TEL: 017-734-0780
FAX: 017-777-5684

八戸港の物流を支える人々

～海上保安庁第二管区海上保安本部
八戸海上保安部～



海上保安庁は、昭和23年の海上保安法施行時に創設され、八戸海上保安部も同年に設置されました。管轄する区域は、青森県東部から岩手県北部に及び、青森県東通村から岩手県野田村までの沿岸及び沖合の海域で、日々海の安全を守っています。

◆◆◆海上保安部の業務◆◆◆

○警備業務

- ・船舶による密輸・密航を防ぐため、水際での阻止に努めています。平成15年には、八戸港に入港した貨物船から覚せい剤を押収、潜んでいた密航者7名を摘発しました。
- ・管内の海域は水産資源に恵まれていることから、悪質な密漁事犯が後を絶ちません。日頃から情報収集に努め、アワビやナマコなどの密漁者の摘発に務めています。
- ・工場や船舶等からの汚水・油などの違法排出を取り締るとともに、海洋汚染防止の指導、啓発を進めています。
- ・管内の六ヶ所村には、高レベル放射性廃棄物の貯蔵施設及び低レベル放射性廃棄物の埋設施設があり、さらに使用済み核燃料再処理工場の本格稼働に向けての準備が進められています。同施設に受け入れる放射性廃棄物は海上輸送によって隣接するむつ小川原港で陸揚げされており、これらについて、適切な海上警備を実施しています。

○救難・防災業務

- ・海難事故、海上における人身事故等に24時間体制で救助にあたっています。
- ・漁業関係者や海事関係者、また釣り人などに対し、海難事故での死亡、行方不明等をなくすべく、海難防止講習等を通してライフジャケットの着用や、緊急電話番号118番の周知などを図っています。

- ・海難事故等の発生時を想定し、各自治体や関係機関と対応訓練を実施し、万が一の際の体制を整えています。
- ・管内の八戸・むつ小川原・久慈の三箇所には、石油コンビナート等災害防止法で特別防災区域に指定されている石油コンビナートがあり、関係組織と連携して油流出の防除体制を整えています。

○港長業務

- ・海上において危険物荷役・工事・作業や行事が行われる際の許認可のほか、船舶の安全航行に関する指導や各種情報提供を行い、船舶交通の安全を図っています。八戸港においては、信号所にて船舶の交通管制を実施し、港内の安全確保に万全を期しています。

○航行援助業務

- ・管内には、灯台をはじめとする光波標識43基、電波標識1基、船舶通航信号所1基、計45基の航路標識のほか、船舶気象通報箇所1箇所があり、これら施設の機能維持管理に務め、船舶航行や漁業の安全を図っています。

現在、八戸海上保安部には、巡視船「しもきた」「まべち」の2隻、巡視艇は「むつかぜ」「むつぎく」の2隻が配備されています。海上保安部では毎年、巡視船の体験航海や灯台の公開などのイベントを通して、地域の方々に海での事故防止に関する啓発活動を行っています。船舶が安全に航行し、海でのレジャーを安心して楽しんでもらえるよう、今後も事故ゼロを目指して取り組んでまいります。



巡視船



港内遠隔監視の様子

お問い合わせ先

八戸海上保安部
八戸市築港街2-16
八戸港湾合同庁舎3階
TEL：0178-33-1222
FAX：0178-33-1223

	コンテナ航路	船社名	集荷代理店	寄港間隔	主な寄港地
外航	東南アジア航路	PIL	八戸通運	1便/週	[寄港地] 台湾(高雄、基隆、台中)、中国(香港、上海) [接続地] 東南アジア全域、中国、豪州、欧州、南米、アフリカ、他
	中国・韓国航路	南星海運(株)	八戸港湾運送	2便/週	[寄港地] 韓国(釜山、光陽)、中国(大連、青島、上海、寧波) [接続地] 中国、ベトナム、欧州、北米、南米、豪州、他
	北米航路	WSL	八戸港湾運送	1便/月	[寄港地] アメリカ(シアトル)、カナダ(バンクーバー)、釜山
内航	内航フィーダー航路	(株)横浜コンテナライン	八戸通運	1便/週	[寄港地] 横浜 [接続地] 世界各地
		井本商運(株)	八戸港湾運送	1便/週	[寄港地] 東京、横浜 [接続地] 世界各地
		鈴与海運(株)	八戸港湾運送	1便/週	[寄港地] 横浜、名古屋 [接続地] 世界各地

PIL: Pacific International Lines (Singapore) WSL: Westwood Shipping Lines (U.S.A)

主な寄港地～八戸港の所要日数(最短)

寄港地	所要日数(日)	
	輸出	輸入
釜山(韓国)	3	4
光陽(韓国)	4	5
蔚山(韓国)	5	8
基隆(台湾)	5	7
台中(台湾)	7	14
高雄(台湾)	8	6
香港(中国)	9	11
大連(中国)	6	8
青島(中国)	7	7
上海(中国)	7	7
天津新港(中国)	8	9
寧波(中国)	6	8
蛇口(中国)	11	13
シンガポール	19	16
ジャカルタ(インドネシア)	27	21
バンコク(タイ)	22	23
レムチャパン(タイ)	23	21
マニラ(フィリピン)	27	24
ホーチミン(ベトナム)	26	20
ハイフォン(ベトナム)	10	12
ロングビーチ(米国西岸)	16	18
シアトル(米国西岸)	21	13
チャールストン(米国東岸)	30	23
ニューヨーク(米国東岸)	29	22
バンクーバー(カナダ)	23	13
ブリスベン(オーストラリア)	31	21
ブリスベン(オーストラリア)	40	28
サウサンプトン(イギリス)	29	35
ルアーブル(フランス)	30	35
ブレーメルハーフェン(ドイツ)	32	35
ハンブルグ(ドイツ)	43	44
ロッテルダム(オランダ)	41	42



青森県八戸港管理所では、八戸港八太郎2号ふ頭コンテナヤードに、冷凍コンテナ用コンセント(リーファープラグ)を増設しました。

八戸港の冷凍コンテナは、主に中国・韓国などとの魚介類の輸出入に利用されております。これまでは、220V用が10個、440V用が40個設置されておりましたが、220V用は廃棄し、今後主流となる440V用を22個増設、計440V用を62個としました。

これにより、冷凍コンテナを活用した食品輸出入の対応がより充実し、八戸港利用の拡大につながることが期待されます。



冷凍コンテナ用コンセント

青森県三八地域県民局地域整備部八戸港管理所

TEL:0178-28-2105 FAX:0178-20-4746

編集後記

本誌トップ記事でもご紹介しましたが、東南アジア定期航路交流ミッションとして訪問した香港と台湾。その台湾のおみやげとして有名なのが、パイナップルケーキです。

パイナップルはブラジル原産で、大航海時代に世界各地へ伝わり、台湾へは1650年頃に伝わったといわれます。今では台湾といえばバナナと並んで思い浮かべるほど、代表的な果物です。日本へ輸入されているパイナップルのうち、2番目に多いのが台湾産となっています。

そんなパイナップルを使って作るパイナップルケーキは、台湾では昔からポピュラーなお菓子で、地元の方にはお茶受けにもよく使われるそうです。

中国語で「鳳梨」と呼ばれるパイナップルは、台湾での発音が、「旺来」という縁起の良い言葉と似ているため、神棚に飾られることもあるようです。そう考えると、パイナップルケーキも縁起の良いおみやげに思えてきますね。

海上コンテナ輸送の御用命は「八戸港国際物流拠点化推進協議会」加盟の各社へ

八戸通運株式会社(海運営業所)	TEL:0178-29-0202	FAX:0178-20-3281
八戸港湾運送株式会社	TEL:0178-29-3177	FAX:0178-29-3119
新丸港運送株式会社	TEL:0178-20-2321	FAX:0178-20-2353
八戸運輸倉庫株式会社	TEL:0178-28-2401	FAX:0178-28-6976
三八五流通株式会社(八戸区域事業所)	TEL:0178-52-7755	FAX:0178-52-7751
日本通運株式会社八戸支店	TEL:0178-20-3040	FAX:0178-20-3154
ナラサキスタックス株式会社八戸支店	TEL:0178-20-1651	FAX:0178-20-2444
株式会社青森銀行・株式会社みちのく銀行・青い森信用金庫		
青森県・八戸市・八戸商工会議所・八戸港振興協会		



八戸港国際物流拠点化推進協議会 Hachinohe Port Promotion Commission

〒031-8686 青森県八戸市内丸一丁目1-1 八戸市産業振興部産業政策課内

TEL:0178-43-9244 FAX:0178-46-5600 e-mail: hppc@hi-net.ne.jp www.hi-net.ne.jp/hppc

(株)八戸港貿易センター Hachinohe Port Trade Center Co., Ltd.

〒039-1162 青森県八戸市豊洲3-9 八戸港貿易センター3階

TEL:0178-72-1505 FAX:0178-72-1503 e-mail: mail@hptc.co.jp www.hptc.co.jp